

玩具①

天理大学附属天理参考館学芸員

中尾 徳仁 Norihito Nakao

当館は20世紀前半に中国大陆や台湾で収集された玩具を約2,000点所蔵している。これらは日本国内はもちろん、現地でさえも残っている例が少ない貴重なコレクションである。その玩具資料を数回の連載にわたって紹介していきたい。今回は音や動きを楽しむ玩具を取り上げる。

まずは音を楽しむものを紹介する。図1は張り子の獅子に、土台と車輪を付けた玩具「獅子車」である。背後から押したり紐を付けて曳き歩いたりすると、首や尾を振りながら足もとの子獅子たちを回転させ、後脚付近に付けられた金属製の太鼓を賑やかに叩く。



図1：獅子車 20世紀前半、
中国遼寧省 長さ60.0cm

子獅子の回転は、獅子の足もとに据え付けられた2枚の円盤（それぞれ青と緑の彩色を施した土製の子獅子が乗っている）の底が車輪とわずかに接触し、車輪が回転すると摩擦に

よって円盤が水平方向に回ることによって生じる。また、太鼓が鳴るのは、車輪の回転と共に車軸が回り、車軸に付けられた2枚の金属片が麻ひもで結びつけられたパチを弾いて太鼓を打つからである。金属のパチ（長さ約5cm）の下に太鼓があり、それを打つ度にパンパンと音が鳴る。

また、土台部分は細い金属棒を溶接して組み立てられ、土台・車輪共に緑の色彩が塗布されている。車輪にはタバコを入れる缶の蓋と思われるもの（直径約7cm）を使用している。4つの車輪に刻印されているのは中国・イギリス・アメリカのタバコ会社の名称で、それぞれ「中国南洋兄弟烟草公司香烟」「CHINA TOBACCO MFG.CO,LTD SHANGHAI」「W.D&H.O WILLS BRISTOL&LONDON」「TOBACCO PRODUCTS CORPOLATION RICHIMOND VA. NEW YORK U.S.A」と読める。当時の中国大陆でタバコを販売した会社を知る手がかりになることに加え、それらが玩具の部品として再利用されている点が面白い。



図2：芝居人形「髹人」 20世紀前半、中国
左端の人形の高さ15.5cm 盆の径25.5cm

は豚毛）にあり、これらが盆の微妙な振動をとらえ、あたかも劇を演じているかのような動きを人形にさせるのである。

髹人の台座（下半身に当たる部分）は粘土で円錐形に作られ、その底部には外周に沿ってぐるりと一周するように2～3mmの硬い毛（前述）が貼り付けてある。頭部および手部分も同様に粘土で、各部を繋ぐ骨組みは針金で作られ、その上に彩色が施

された紙製の衣装を着せる。顔には目・鼻・口のほか、その人物に合った隈取りが丁寧に描かれ、さらに頭飾り（頭部と同じく粘土製・一部針金使用）が付くこともある。

なお図2右端の武将の髭には、リアル感を出すために綿毛が用いられている。また、両端に位置する二体の武将は竹ヒゴと紙で作られた武器を持ち、旗指し物を背負っているが、左の人形は腕が固定されておらず、振動を与えると肩より先の部分がゆらゆらと揺れる構造になっている。

髹人を載せた真鍮製の盆は、この遊び専用のものである。叩いた時の振動が伝わりやすいように、盆全体を可能な限り薄くするなどの工夫がみられる（ただし棒は付属品ではない）。もちろん別の容器上でも髹人は動くが、この盆に載せることでより滑らかな動きを楽しめるのである。

髹人は、清の光緒年間（1875～1908）に王春佩という人物が初めて考案したとされる。髹人のモデルは京劇の人気演目である『三国志』などに登場する武将が多かったようだ。

髹人と先述の獅子車は2013年現在、当館1階中国・台湾コーナーに展示中である。



図3：風車 1999年
北京市にて制作 高さ228.0cm

この他に、音と動きの両方を楽しむ玩具もある。風車（図3）はかつて北京の子供達に好まれた。1930年代の北京では、旧正月（春節）になると、寺廟の祭（庙会）に出る露店や琉璃廠（故宮の南西にあり高級文房具や骨董品などを扱う店舗が多い地区）付近に立ち並ぶ市で売られた。風車を買ってもらった子供はそれを高々と持ち上げて走って帰り、自宅の門に一日中挿しておいたという。

このような風車は、都市近郊の農民が農閑期を利用して作った。製作手順は、①高粱がらを折って結び合わせ、風輪を支える枠を組む。②細く割った竹ヒゴを丸めて径10cmほどの輪にし、回転軸から紙製の羽根数本を放射状に張って風輪を作る。③粘土で径2～3cmの太鼓の胴を作り、底部に二層の紙を貼り付けて鼓面とする。④風輪の回転軸に金属片を刺す。その金属片に先端が1～2mm程度触れる位置に、パチを糸で結びつける。⑤最後に風輪と太鼓を枠に取り付けると風車が出来上がる。風輪が回転すると背後の軸も回り、そこに付けられた2枚の金属片が竹製のパチを弾いて太鼓を打つ仕掛け（図4参照）が施されており、高く掲げて走ったり、素早くバットのようには振ったりすると、一斉にパタパタと賑やかな音を出す。風輪が1個だけの小さな風車から、50個以上付いている巨大なものまで、さまざまな大きさの風車がある。

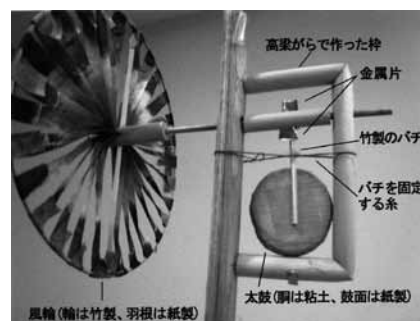


図4：風輪後方部分の拡大写真

（14頁へ続く）